No.	種別	質問	回答
1	バイオガス化施設で発生した火災	修繕費用及び修繕期間はどの程度かかりましたか（今後の予定含む）。	バイオガス化施設の火災は、発酵槽（処理する設備）より前にある前処理設備で発生しました。復旧に際しては、火災の再発防止についてタクマと協議を行い、設計・製作の期間を含めると約1年5ヶ月かかりました。2024年4月に試運転（ごみの投入）を開始し、バイオガスの発生状況は順調に回復しています。 なお、費用については現在も精査中です。（ホームページ等での掲載を予定していますのでお待ちください。）
2	バイオガス化施設で発生した火災	バイオガスによる売電収入がなくなったことによる経済的損失の規模はどの程度ですか。	売電収入だけで、変動はありますが、約1500万円/ 月の売電収入が入りませんでした。
3	バイオガス化施設で発生した火災	今後町田市としてどのような対策を考えていますか。また、その経費はどの程度を予定していますか。	消防署の現場検証の結果、火災はリチウムイオン電池によるものでした。火災を受けて、これまでに、充電式電池や充電式小型家電の行政回収や市民センター等での拠点回収を開始しました。 バイオガス化施設には「燃やせるごみ」ピットのごみを投入しており、リチウムイオン電池の混入は想定していませんでした。今年は市内小学校に啓発用マグネットを配布する事業を開始しました。なお、さらなる対策を検討しているところであり、経費については回答できません。
4	バイオガス化施設で発生した火災	バイオガス化施設が稼働停止していた際、可燃ごみはストーカ式焼却炉で処理していたかと思われますが、ピット容量や焼却処理の容量はひっ迫しましたか。また、ひっ迫しなかった場合、特別な対策など講じましたか。	焼却炉の休止期間を短くして、焼却処理することで対応したほか、多摩ニュータウン環境組合（多摩市・八王子市・町田市で構成）の多摩清掃工場に応援処理をお願いしました。
5	CCUS（イチゴハウス栽培）	事業主体がタクマですが、町田市として関わっている部分はありますか。	排ガス中の二酸化炭素を用いた実証試験の実施にあたり、タクマと事前に協定を結び、役割を明確化しています。 町田市は以下の3点を提供しています。 ①焼却炉及びガスエンジン発電機の排ガスを提供 ②試験装置設置場所の提供 ③試験装置に用いる電力と水の提供
6	CCUS（イチゴハウス栽培）	CO2を回収していますが、現時点でカーボンオフセット事業として実施していますか。	施設由来の燃焼ガス中のCO2を「回収」ではなく、燃焼ガスを「浄化」し、浄化後のガスをそのまま温室に供給することで、ガスに含まれるCO2を利用しています。また、カーボンオフセット事業としては実施しておりませ ん。
7	CCUS（イチゴハウス栽培）	【カーボンオフセット事業として実施している場合】どの程度の量を相殺できていますか。	カーボンオフセット事業では、ございません。
8	CCUS（イチゴハウス栽培）	CO2供給装置は増設して設置しましたか。	施設竣工後に実証試験を計画立案しているため、装置を増設して設置しております。
9	CCUS（イチゴハウス栽培）	【増設した場合】その費用と負担者は。	今回の場合は実証試験であるため、実証実施者のタクマが負担しています。事業展開した場合は、廃棄物処理施設を運営管理する自治体様または農園を運営管理する農業事業者様での負担を想定しております。
10	CCUS（イチゴハウス栽培）	イチゴは人が食べられるレベルまでの安全確認はすでにできていますか。	現在、動物実験などを実施して評価中です。結果の一例ですが、浄化ガスを供給している温室の大気環境は、通常の大気環境や一般農園等と同等であることを確認しております。
11	CCUS（イチゴハウス栽培）	実証事業中にイチゴの販売は考えていますか。	事業性や安全性を評価するための実証試験として実施しているため、販売は考えておりません。
12	CCUS（イチゴハウス栽培）	実証事業終了後は継続的に事業実施する予定ですか。	実証試験は2026年までで完了予定です。2027年より、導入を希望する自治体様と農業事業者様と連携して、事業化を目指します。
13	CCUS（イチゴハウス栽培）	実証事業をほかの自治体でも実施する予定がありますか。	現在のところ本事業の実施予定はございませんが、多くの自治体様に興味を持っていただき、実証装置を見学されていますので、今後事業展開を図りたいと考えています。
14	ごみ処理施設全般	可燃ごみを破砕選別装置で、生ごみピットとごみピットに選別していますが、割合はどのくらいでしょうか。	50ｔのバイオガス化ごみを作るための破砕選別対象ごみは約69.5ｔ必要です。

15	ごみ処理施設全般	施設からの排水量は、一日当たり何m3ですか。 （可能であれば、バイオガス化施設とそれ以外の施設）	分離水処理設備では汚泥脱水機の汚水と合わせて約80㎥／日処理を行っています。 脱水ろ液は、窒素・リン除去のため、AO法（嫌気好気法。メタノール使用。）で処理しています。 施設全体で水道使用量は日量90t程度、排水量は日量70t程度です。
16	ごみ処理施設全般	現施設を稼働するにあたり、収集車や一般持込車による周辺道路の混雑や渋滞に関する住民要望・意見などはありましたか。また対策などを講じましたか（周辺道路整備など）。	市民の持込みを事前予約制にしたことや、近隣小学校に通学する学童の安全確保のため、近隣住民要望で道路の拡幅、信号機設置などを行っており、渋滞は起きていません。周辺住民から車両通行に伴う騒音、振動、臭気の苦情はありません。
17	ごみ処理施設全般	不燃ごみ選別ラインについてですが、レーン数と人員数について教えてください。	プラットホームでの前選別と手選別コンベヤでの手選別による２段階選別を実施しています。プラットホーム（受入）で3～4名 不燃ごみ手選別コンベヤで3～4名
18	ごみ処理施設全般	メタンガス化にまわされるごみ量に対して、実際にガス化されるごみ（有機物等）の割合はどのくらいですか。 （≒メタンガス化にまわされるごみの選別精度）	・可燃ごみのうち、約40%が選別対象ごみとなります。 ・「破砕選別装置」のスクリーンで、プラスチック等軽いごみを選別しています。スクリーン穴径で、バイオガス化する選別ごみを調整できます。 ・プラスチック類等不適物の割合が多いため、分別効率が当初の想定と異なっていました。 ・選別残渣は、「機械選別装置」で分別された、バイオガス化に適さないものであり、主にプラスチック類です。（約4割） 　発酵残さは、発酵槽からの排出したものです。可燃ごみピットに戻し、焼却施設で熱回収しています。一部は循環利用します。
19	ごみ処理施設全般	メタンガス化にまわされるごみ量に対して、発酵残渣として戻される量はどのくらいでしょうか。	バイオマス化施設には、約５０ｔ/日のごみを投入します。発酵後含水率５５%まで脱水しごみピットに約３２ｔ戻されます。
20	ごみ処理施設全般	コンバインド方式を運営していて課題と感じることはありますか。	稼働後、バイオガス生成など性能に課題等はありませんが、2023年11月4日に施設にごみを供給する前処理設備で火災が発生し、破砕選別装置等が焼損したため、現在もバイオガス化施設でのごみ処理を停止しています。 　施設復旧と火災対策に時間を要するため、発酵槽内のメタン菌の状態を良好な状態に保ち、復旧後に速やかに通常運転に移行できるよう維持管理を行っており、2025年6月ごろ復旧予定です。
21	ごみ処理施設全般	リチウムイオンバッテリーの検知システム等の導入状況はどうなっていますか。	町田市では、リチウムイオン電池等によるごみ処理施設内の火災を防止するため、装置メーカーと協定を結び、２０２４年９月９日（月）から１２日（木）４日間に実証実験を行いました。 実験期間中に収集した燃やせないごみを用いて、ごみが袋に入った状態（破袋前）及びごみを袋から出した状態（破袋後）の状態別で正解率の比較等を行いました。 破袋前はごみの重なりが多く検知困難となる状況があり（検知率９０%）、破袋後はごみの重なりが少なく、正解率が向上しました（検知率93.7%）。 また、正解率向上のために、改良モデルによる実証実験を２０２５年６月ごろに行う予定です。